

なごや街角今昔

【9】中村…ディベロッパーが消えて

池田 誠一

1 秀吉・清正の街

東の今池に対する西の街は中村でしょうか。ただ、中村という地名は広い範囲で用いられており、「中村」という交差点も駅・バス停もありません。ただ、町名の中村町、元中村町、中村本町から考えると、大鳥居があり、地下鉄の中村公園駅のある辺りが中村の代表的な街角ということになりそうです。(図1)

中村は、城からの距離や広小路通を延長した地点という意味では今池と同じです。しかし、なんといっても太閤秀吉や加藤清正の出



図1 中村のついた町名の分布

2 中村の街の歴史

(1) 古代から中世、近世へ

中村には古くからの歴史がありますが、その名前が文書に見られるのは10世紀にまとめられた『和名抄』のようです。その中で愛智郡には10個の郷の名があり、中村はその一つで

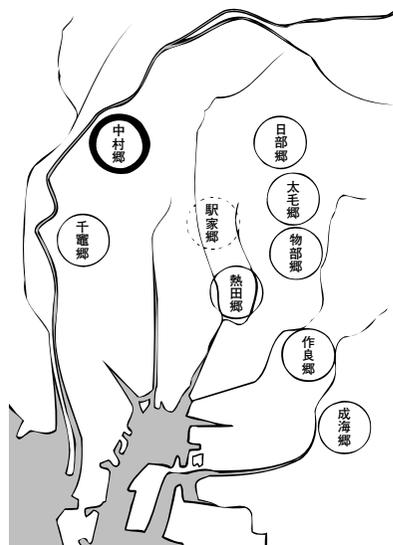


図2 「和名抄」にある愛智郡内の郷とその想定位置 (新修市史①)

生地として全国に知られ、古い歴史があることが、今池とは大きく違ってきます。

ところがこの中村も、明治時代には一面の農村地帯でした。そこが今日までどう変わってきたのでしょうか。中村の街角に立ってその跡を追ってみたいと思います。

した。なかでも厚田(熱田)、成海(鳴海)等とともに今日までその地の残っている数少ない地名の一つになります。(図2)

その中村付近を、西北の萱津(甚目寺町)から東南の露橋(中川区)に向けて、古代の東海道が通っていたといえます。そのルートは概ね中世の鎌倉街道へと引き継がれ、中村は長い間、街道沿いの村でした。しかし戦国時代になると清須が栄えたため、街道は北にそれてしまいました。

同じ頃、中村には秀吉や清正が生まれ、尾張中村は英雄の故郷になりました。が、江戸時代には逆に、徳川政権下で厳しい目で見られることとなります。尚この中村は、歌舞伎の中村勘三郎の初代の出身地だともいいます。

(2) 明治になって

明治時代になると徳川という重しがとれて秀吉を称えようという動きが出てきます。明治16年、当時の県知事の国貞廉平が地元の有志と諮り、18年に豊公の生誕地に豊国神社の正殿を完成させました。その後、県や地元の寄附等で拡張されて中村公園ができることとなります。そして43年には清正も合祀されることとなりました。豊国神社は中村のシンボルになったのです。大正の初めには笹島から西に今日の太閤通が整備され、大正2年には鉄道を跨ぐ明治橋の西際から中村公園前まで電車が走り出しました。

中村は、戦国の頃は上・中・下の三つの村だったといいますが、江戸時代は上、下の2つでした。それが明治の中頃織豊村となり、39年には他の2村と合併して「中」という村になりました。そして大正10年に名古屋市と合併したのです。

その12年、中村を揺るがす施設ができました。すぐ東に大須から遊廓が移ってきたのです。12分館という郭内には当時で1軒30万円という高樓が軒を連ね、名古屋駅西からはバスも走り出しました。この中村遊廓はなんと年間100万人近くが訪れ、最盛期の昭和12年には娼家130軒、娼妓2000人を数え、日本一といわれるほどの遊廓になりました。中村は遊廓の街と間違えられるようになって

しまいました。

(3) 戦前・戦後の中村

昭和12年に名古屋駅は新しくなり、付近の線路は高架になりました。道路も広小路線が中村に延び、電車が栄町線とつながりました。ところが、便利になり家の数も徐々に増えましたが、中村は豊国神社の街、中村遊廓の街のイメージのままでした。

期待された大きな変化は、昭和44年に地下鉄が中村公園に延長された時でしょう。駅に付置されたバスターミナルには周辺からのバス路線も集められました。中村にはようやく中村の中心的な街角ができることになりました。

けれども、どういうわけかその後の中村は大きく変わりませんでした。地下鉄の乗客もあまり増えず、そのうちに地下鉄は南に延伸されて高畑(中川区)が新たな拠点になりました。中村を代表する中村公園前付近の街は小さな地域の拠点に止まってしまったのです。

3 変遷の跡を追って

それでは変遷の面影を追って中村の街角を歩いてみましょう。(図3) 地下鉄の中村公園駅の1番出口を出ます。出ると目の前に大き

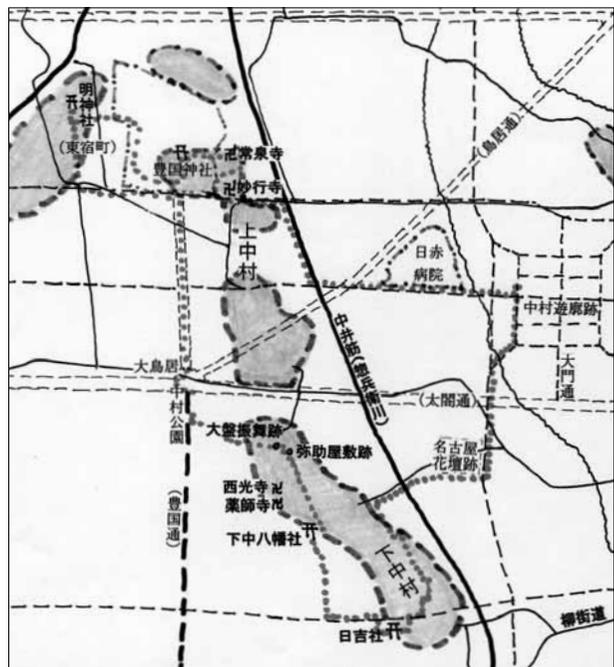


図3 明治中頃のの中村付近と現在(破線……はルート)



中村公園前の交差点にそびえる大鳥居
な鳥居が見えます。豊国神社の大鳥居で、高さ24^尺、支間が18^尺。柱の直径でも2.4^尺になります。この鳥居は大正10年に名古屋市と合併する時に何か記念のものをと発想され、昭和4年に完成しました。当時は何もないところにぼつんと立って、遠くからも見渡せたといいます。

さて交差点を渡り北に参道に沿って歩きます。突き当たりは豊国神社ですが、そこに入る前に中世に鎌倉街道の宿のあったという所を見ておきましょう。神社の前の道を西に4



昔、鎌倉街道の萱津東宿跡にある明神社

本行き、北に少し行くと**明神社**があります。付近は東宿町といい、鎌倉時代に萱津の東宿があった所といいます。1242年に書かれた『東関紀行』では、「かやつの東宿の前を過ぐれば、そこらの人集まりて里にも響くばかり罵りあ



豊国神社の横にある豊公誕生之地の碑

えり、今日は市の日になむあたりたるぞ…」と、その賑やかな様子が描かれています。

神社の前の道を東に行くと中村公園の西口に出ます。北側は戦後、競輪場になってしまいました。公園の中を周って南の正門に戻り、**豊国神社**に参ります。本殿の右隣には「**豊公誕生之地**」の碑が立っています。明治18年に秀吉の出生地とされた、出生地の1つ目の候補地です。東に進み、細い道路を渡ると清正が徳川へのカモフラージュに建てたという**常泉寺**があり、出生地の2つ目の候補地です。その南に行くと、**妙行寺**があり、ここには加藤清正の出生地の碑があります。これも移されたもののようです。



太閤山常泉寺。誕生の井戸などがある



清正誕生之地の碑の立つ妙行寺

寺の前の道を東に進むと一つ目の信号は庄内用水の中井筋(惣兵衛川)の跡になります。それに沿って南に進み、5本目の道は昔「**小栗橋**」という名の橋で、この付近を別名**小栗街道**といわれる鎌倉街道が通っていたといえます。

用水の跡を南に1本行くと広い通に出ます。左に曲がり信号を越えて少し行くと**第一日赤病院**です。ここは遊廓造成の土を取った跡が池になり、池には身投げした遊女を吊うために弁天が奉られて、**遊里ヶ池**と呼ばれました。その跡を埋めて病院が誘致されたのです。

東に信号を越えると**中村遊廓**の跡に出ます。



中井筋の小栗橋跡。ここを鎌倉街道が通っていた

廃止されて50年近くになりますが、特徴ある町割りと、いくつかの建物が残っています。信号から2本目の道を左に20^{メートル}ほど行った左側の建物(福春)もその一つです。Uターンして南に向かい、突当たりを右斜めに行きます。

広い道を南に行き幹線道路(太閤通)を越えます。少し行くと右に中村郵便局があります。ここには名古屋花壇という大きな娯楽施設がありました。郵便局を越えて右に曲がります。少し行き、中井筋の跡の緑道を越えて2本目の細い道を南に入ります。この辺りは昔の下中村の集落です。細い道を、突き当たれば近くの道に移って南に進みます。正賢寺の前を過ぎ、南に進むとバス通(千成通)に出ます。渡って南に少し行くと日吉公園です。公園の東側には日吉神社(日之宮)があり、秀吉の母が子の出生を祈願した所といえます。この辺りが中村の南の外れになるので、北に向きを変えます。



日吉神社(日之宮)

公園の西から千成通に出て西に、次の信号を北に曲がります。正面に下中村八幡社が見えます。神社を通り抜け、東口を北に進みます。進むと左手に薬師寺、西光寺があります。いずれも秀吉の故事のある寺です。

西光寺を過ぎて2本目から3本目にかけての右側は早世した秀吉の父・弥助の屋敷跡といわれ、出生地の3つ目の候補地になります。その向こうの角を左に曲がると、秀吉が清正と小田原の陣のあと中村を訪れ、大盤振る舞い

した所とされています。秀吉は「中」中村の生まれといわれており、3つ目が本当の出生地なのかもしれません。まっすぐ西に行くとバスターミナルで、下が地下鉄中村公園駅です。



小田原の陣のあと。秀吉が大盤振る舞いをしたとされる所

4 中村のディベロッパー

中村の街を考える時、忘れてはならないのが名古屋土地株式会社です。名前は名古屋ですが中村を拠点に活動しました。

この会社は、まず大正の初めに名古屋駅西から中村公園前まで電車を走らせました。中村と名古屋の距離を大きく縮めたのです。12年、遊廓ができるとバスも走らせました。そして14年に遊廓の西北に4^畝もの中村遊園地を造りました。遊里ヶ池の所です。遊園地といっても、ラジウム温泉や宝塚が来る様な演芸場など大人向けの施設もありました。

昭和の初めに区画整理が始まると、その少し南に名古屋花壇という遊園地を造り、遊里ヶ池が埋め立てられたためかプールも出来ました。池を埋め立てた跡には日赤の総合病院が誘致されました。この会社は、地域に貢献するからと1^畝強の土地を無償提供したのです。しかしこの会社も、昭和11年電車を名古屋市に譲渡するとともに惜しまれつつ歴史から消えていきました。

今の言葉でいえばディベロッパーでしょう。歴史ある中村にこだわり、大胆かつ先進的な事業を進めた企業が消えるとともに、引き継ぐものがない中村は、名古屋市の住宅地としての道を歩み始めるほかなかったのかもしれない。

〈主な参考文献〉

- ①区政15周年記念協賛会「中村区史」(1953、自費)
- ②横地清「あだにえーなも中村」(1998、愛知県郷土資料刊行会)
- ③黒宮馨「上中村・稲葉地 語り伝えの記」(1991、自費)